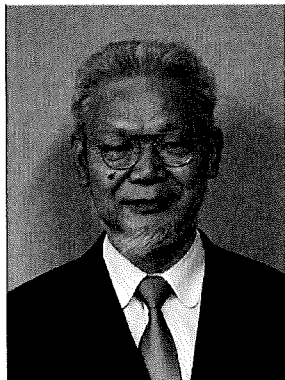


## 特別講演 I

大会第1日目 14:40~16:40



## CAD/CAM冠成功への秘訣・口腔内スキャナーの現状

日本デジタル歯科学会 理事長 末瀬 一彦

デジタルデンティストリーによる歯科医療の革新に伴って、2014年にCAD/CAM冠が医療保険に導入され、適用部位も順調に拡大されてきた。導入当初は「脱離」や「破折」に関する報告が目立ったが、現在では多くの臨床的エビデンスが報告され、安定的に臨床応用されている。CAD/CAM冠に関する施設基準届出は全国的に80%を超えるが、小臼歯および第一大臼歯への歯冠修復は金属冠が依然半数以上を占め、前歯部においてもレジン前装冠が優位を占めている。CAD/CAM冠は歯冠修復における新素材として研究開発され、修復材料のオプションの一つであり、決して金属冠の代替材料ではない。臨床応用にあたっては、CAD/CAM冠用レジンの特性を十分に理解するとともに、支台歯形成、適合性、接着操作の基本術式の3要素を遵守しなければならない。

- \* 支台歯形成においては、対合歯との適切なクリアランスの確保、滑沢かつ単純な外形、丸味を持たせた隅角部、スムーズで明確な辺縁形態とフィニッシュライン
- \* CAD/CAM冠の適合性は、CADで調整できることから支台歯形態に応じて対応する、切削効率の高いミリングバーの使用
- \* 接着操作においては、CAD/CAM冠内面及び支台歯表面の適切な前処理、口腔内の接着阻害因子の徹底除去、適切な接着性レジンセメントの操作

一方、最近注目されている口腔内スキャナーは、印象採得時の苦痛軽減・安全性の確保、術者のストレス軽減、トレーの使用や模型の移動に伴う感染防止、修復物の即日処置が可能、色調採得が同時に行える、データとして保存管理できることなどの特徴がある。これまでの報告では、4歯程度の歯冠修復であれば従来の間接法とほぼ同程度の適合性を得ることが可能であるが、全歯列を計測すればその精度はやや劣るとされている。また、口腔内スキャナーの機種によってスキャンングパスが異なること、スムーズな操作を行うためにはある程度のトレーニングを必要とすること、可視できる範囲でしか印象採得が行えないこと、現状は海外製品がほとんどで高価格であることなど改良すべき課題もある。今後はさらなる歯科医療の効率化・標準化・安定的供給を図るためにはCAD/CAM冠の適用拡大と口腔内スキャナーの保険診療への導入が期待される。

## ■プロフィール

## 【ご略歴】

1976年3月 大阪歯科大学 卒業  
 1980年3月 大阪歯科大学大学院 修了  
 1990年4月 大阪歯科大学 講師 (歯科補綴学第2講座) (~1997)  
 1997年4月 大阪歯科大学歯科技工士専門学校 校長 (~2016)  
 2008年4月 大阪歯科大学歯科衛生士専門学校 校長 (兼務 ~2014)  
 2014年1月 大阪歯科大学歯科審美学室 教授 (兼務 ~2017)  
 広島大学歯学部 客員教授  
 2017年4月 大阪歯科大学 昭和大学歯学部 客員教授  
 東京医科歯科大学 非常勤講師  
 岡山歯科技工学院 非常勤講師  
 2019年7月 奈良歯科衛生士専門学校 理事長  
 2020年1月 京都インプラント研究所 所長  
 2021年6月 (一社) 奈良県歯科医師会 会長  
 2022年4月 近畿北陸歯科医療管理学会 会長  
 2023年6月 (公社) 日本歯科医師会 常務

## 【学会関係役職、学会専門医】

(一社) 日本デジタル歯科学会 理事長  
 (一社) 日本歯科技工学会 監事  
 (一社) 日本歯科審美学会 顧問  
 全国歯科技工士教育協議会 顧問  
 全国歯科衛生士教育協議会 理事  
 (公社) 日本補綴歯科学会 名誉会員 (2018.4~)  
 (一社) 日本歯科理工学会 名誉会員 (2018.4~)  
 日本補綴歯科学会 専門医・指導医  
 日本口腔インプラント学会 専門医・指導医  
 日本歯科審美学会 認定医  
 日本歯科理工学会 シニアアドバイザー  
 日本歯科医療管理学会 認定医

特別講演Ⅱ

大会第2日目 (A会場) 9:30~11:00

「チェアサイドから見える現代 (いま)」  
— 超高齢社会への対応 高機能快適長寿義歯 —

医療法人社団平和会 添島歯科クリニック 院長 添島 正和



義歯使用者340人に対するあるアンケート調査によると、入れ歯を使用して85.6%の人が不便だと感じている現実があります。また東北大学大学院医学研究科と東京医科歯科大学の共同研究によると「9歯以下で入れ歯なし」だと社会的孤立リスクが高くなるとの報告もあります。

団塊世代が後期高齢者となり少子化が問題視されている今後は、いわゆる仕事に対するスキル・経験が豊富な定年過ぎの高齢者の欠損補綴装置（特に医療苦情の絶えない部分床・全部床義歯）には、保険・自費にかかわらず高機能快適長寿義歯を提供できる技を身につけることで元気で健康な高齢者の創出と無駄な医療費の削減につながります。

私は、1975年に熊本市で添島歯科クリニック開業以来、全ての患者の規格化された臨床記録を今日まで保存し、長期的な治療経過観察から結果を分析した予後評価をルーティーンとしています。

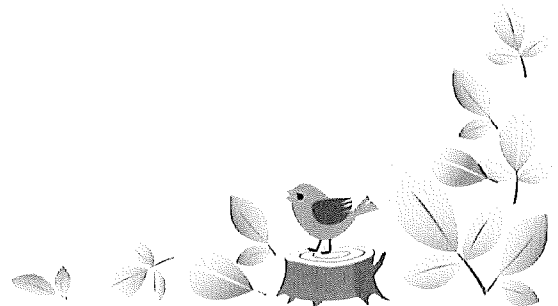
その間、様々な時代の変遷と社会状況・価値観の変化と共に、臨床術式も患者目線に立ったより「低侵襲で腫れない」「痛みが少ない」「抜髄・抜歯を極力避ける」「シンプルな臨床術式」にバージョンアップした一端を発表させていただきます。

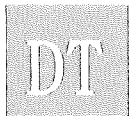
本講演における利益相反はございません

■プロフィール

【ご略歴】

- 1972年 東京歯科大学卒業・歯科医師国家試験合格  
熊本・東京で勤務
- 1975年 熊本市に添島歯科クリニック開院
- 2009年 歯学博士修得（東京歯科大学解剖学講座）
- 2009年 日本顎咬合学会指導医
- 2013年 日本口腔インプラント学会指導医
- 2016年 日本臨床歯周病学会指導医
- 2016年 日本アンチエイジング学会認定医
- 2017年 日本臨床歯科学会（SJCD）常任理事・フェロー
- 2021年 日本補綴歯科学会専門医
- 2021年 日本歯周病学会指導医 専門医





## テーブルクリニック

大会第2日目（B会場）10：40～11：40

# デジタルデンティストリーの現状とサポート体制の重要性 ～アナログ技工からの転換を成功させるための鍵～



株式会社 松風 越智 遥奈

本講演では、歯科業界のデジタル化の現状と今後の発展性について解説いたします。歯科業界のデジタル化のスピードはますます加速しており、技工物の設計・製作において歯科用CAD/CAM機器は必要不可欠となっています。また、アナログ技工からデジタル技工への移行は、デジタルを「知ること」が最も重要です。

さらに、デジタルデンティストリーにおけるサポート体制の重要性について、私がこれまでお客様のデジタル化のお手伝いをさせていただいた経験を基にお話しさせていただきます。デジタルデンティストリーの急速な進歩により、常に新たなハードウェアやソフトウェアに対し、継続的な学習とスキルの更新が求められます。さらに、日常臨床の中で発生するトラブルは、適切なサポートを行なうことにより、予期せぬトラブルの解決の糸口を見出すことができます。

本講演では、デジタルデンティストリーが歯科臨床を変化させる可能性と、その実現に向けたサポート体制の重要性を解説し、デジタルテクノロジーの恩恵を最大限に引き出すためのアプローチを提案いたします。

### ■プロフィール

#### 【ご略歴】

- 2016年 大阪大学歯学部附属歯科技工士学校 卒業
- 2016年 株式会社松風 入社  
営業部学術二係 配属
- 2018年 営業部IDT事業室 配属